

NPO法人 自然と緑

特定非営利活動法人 自然と緑

代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 1-1-18
大阪市教育会館 5 階

TEL : :06-6809-1700 FAX : :06-6809-2702

E-mail : info-sm@shizen-midori.org

URL : https://shizen-midori.org

NPO 法人自然と緑会報 2025 年 7 月 1 日発行第 143 号



第 27 回通常総会議事録 (抄録)

議事録作成者 西田博理事 大谷公子理事

1. 日 時 2025 年 6 月 7 日 (土) 14 時から 16 時 45 分まで
2. 開催場所 大阪市中央区法円坂 1-1-38 大阪市教育会館東館 401 号室

3. 議長等の選任

- ・定刻に至り、司会者瀧原勇事務局長は、本日通常総会は定款による定足数を満たしたので有効に成立する旨を告げ、議長に山下明美理事を全員の承認で選任し、第 27 回通常総会の開催を宣言した。
- ・伊藤孝美理事長の挨拶の後、来賓の全国林野労組近畿中国地方本部執行委員長 田上富二男氏、自然大学学長の渡辺弘之氏を紹介し挨拶を頂いた。
- ・議長は議事録署名人に伊藤孝美理事長、松田純一会員を選出し全員の承諾で選任された。議事運営・資格審査委員に高田七重理事を指名したところ全員異議なく承認された。
- ・議長は高田七重議事運営・資格審査委員から現在の正会員数は 201 名、出席会員数は 28 名、委任状 104 名、計 132 名により過半数との報告を受け、14 時 20 分総会は無効に成立している旨を告げ議事に入った。

4. 議事

【第一号議案 2024 年度事業報告】について上田豪副理事長が、【第二号議案 2024 年度活動計画書】について本田良一理事が、【同監査報告】について佐々木泰彦監事が報告を行った。

【第一号議案】

【質問】(宮本智志会員) 熱帯部が廃止になった経過について説明してほしい。

【答弁】(瀧原勇事務局長) 熱帯部の活動で海外活動のリスクに対応できない旨熱帯部代表に申し入れたところ入部を断られた。会員に報告をした方がよかった。

【質問】(山川亮二会員) やまびこの人数を知りたい。

【答弁】(関澤友規子理事) 郵送 100 人、メール配信 70 人位。

【質問】(山川亮二会員) 郵送が半数。今後その方をどうしていくのか。

【答弁】(関澤友規子理事) 呼びかけをするがこれ以上はできない。

【意見】(佐々木泰彦会員) パソコンできない人もいる。できない人にも合わせてほしい。

【質問】(山川亮二会員) できない人何人いるのか。聞いてほしい。

【答弁】(瀧原勇事務局長) 郵送は減らしていく。とりあえず確認を取る。

-143号目次-

p1~3	第27回通常総会議事録 (抄録)	第27回通常総会書記
p3~4	理事就任のご挨拶	新任理事
p4	河野 猪太夫先生を偲ぶ	自然と緑事務局次長 小島和江
p5~6	渡辺弘之の未解決事件簿 (25) 東南アジアのカワゴンドウ (イラワジカワイルカ)	自然大学学長 渡辺弘之
p6	「これなんだろう・何故だろう」	自然と緑理事長 伊藤孝美
p7	さいとうさんの“話のタネ” (70) シロミノヤブムラサキ	前自然と緑理事長 齊藤侑三
p8	「これなんだろう・何故だろう」の答	自然と緑理事長 伊藤孝美
p8	寄付等の御礼 活動報告/編集雑記	自然と緑会報編集部

【第二号議案】

【意見】（大東弘会員）財政かなり危機的な状態にある。電車でほとんどスマホ見ている。もっと協力できる人がいるのではないか。4～5年でアウトになりかねない。どうすればいいか丁寧に説明していったらどうか。

【答弁】（瀧原勇事務局長）昨年赤字解消について話し合った。プラマイゼロにするよう設定した。賛助会員の募集も始めた。赤字を出さないようにしていく。

【答弁】（関澤友規子理事）郵送の件だがメールが届かない、スマホでは見にくい。等でもとに戻してほしいという人もいる。

【意見】（大東弘会員）会員はこういう現状を知っているのか。

【答弁】（瀧原勇事務局長）総会資料で出している。

【質問】（川崎功会員）支出を抑える話で収入を伸ばす話が少ない。協力事業減っている。他を探すなど工夫がしているのでは。

【答弁】（伊藤孝美理事長）簡単にはいかない。新たな企業の開拓進んでいない。理事会で審議中。

【意見】（大東弘会員）自前でやれるのは自然大学。60人近くいた。会場費もただ。順調だった。現状22名。自然大学を改善する。会場確保、受講生を増やす。クラブではいくら頑張っても数万円にしかならない。

【答弁】（山下明美理事）増やす提案をだしてほしい。収入を増やす手立てを考える。

【答弁】（瀧原勇事務局長）人数が減っているのが問題。どう増やすか企画グループで議論していく。尚、賛助会員は18名増えています。

第一号議案、第二号議案 全員賛成の挙手により承認された。

休憩 15時30分から15時35分

【第三号議案 2025年度事業計画】について牧野副理事長が、【第四号議案 2025年度活動予算書】について本田良一理事が提案を行った。

【質問】（渡辺弘之自然大学学長）30周年記念行事委員長で来年記念誌を発刊に向けてしている。記念式典をやらないのか。理事会でと言われた。何かやれないか。遊磨先生は蛍の話で呼べる。今年まだどうするか話が出てない。学長、理事長での話になるのか。

【答弁】（伊藤孝美理事長）シンポジウムになるか、記念公演をやってもらう手もある。理事会に図って前向きに決定していきたい。

【答弁】（牧野道夫副理事長）予算は難しい。会場費、テーマ、入場料など検討していきたい。

【質問】（橋本文雄会員）教授と行くシリーズ、今年はしませんでした。どこがやっているのか。企画委員会でいろんな教授とのふれあいを広めてほしいと言ったことがある。

【答弁】（山下明美理事）自然観察会で担当となって私がやっている。毎年やると想定していない。諸事情があり中止としてもらった。

【質問】（橋本文雄会員）メンバーの中で議論することはなかったのか。

【答弁】（山下明美理事）協議はしなかった。

【質問】（橋本文雄会員）いろんな教授がいる。そういう先生方と触れ合える場、機会を増やしてほしい。

【答弁】（山下明美理事）次年度やっていく。渡辺先生から3件提案があり、検討した。2月自然観察会の中で参加していただく。河川探訪での参加。ハッチョウトンボは間に合わない。

【質問】（橋本文雄会員）渡辺先生の参加はいいことだが教授のメンバーにも広めていただきたい。

【答弁】（山下明美理事）来年度検討していきたい。

【意見】（渡辺弘之自然大学学長）受講生が少ない。少しでも増えないかいくつか企画した。1週間したら決まることが3カ月先でも今年は無理。少しがっかりした。

【意見】（橋本文雄会員）今年やれるのでは。

【答弁】（牧野道夫副理事長）今年大きな企画がある。沖縄3泊4日の行事予定している。先生に関しては忙しい年になりそう。

【答弁】（山下明美理事）検討している。



全員賛成の挙手

【意見】(大東弘会員) 連合大阪の森要請があればとあるがアプローチして担当者をお願いするしかない。復活を要請してはどうか。

【答弁】(山下明美理事) 箕面の森 大東さんやっただけですか。

【回答】(大東弘会員) 協力はさせてもらう。

【答弁】(瀧原勇事務局長) 検討させていただきます。

【質問】(鍋島靖信会員) 自然観察 せんなん里山公園は里海公園では。箕面国有林費用は出るのか。

【回答】(大東弘会員) 出ると思う。

【意見】(川崎功会員) 良い面は自然大学の教授陣大事にしてほしい。弱い面としてスピード感があってほしい。例えば組織人数を減らし、意思決定を早くするなど。前向きに検討してほしい。

【意見】(橋木啓子会員) 経法大日時間違っている。

第三号議案、第四号議案 全員賛成の挙手により承認された。

【第五号議案 理事増員】【第六号議案 会費改定】について瀧原勇事務局長が提案を行った。鍋島靖信、八尾佳典、神崎トモ子の三名を理事にする。正会員の会費を2026年度から5000円/年→6000円/年に改定する。賛助会員・家族会員については変更なし。

【質問】(森本俊己会員) 5000円から6000円 なぜ1000円アップとなったのか。

【答弁】(瀧原勇事務局長) 8000円で提案した。8000円では会員数が減ると意見が出て最小限1000円とした。

【意見】(大東弘会員) 会費は活動を支援するための投資。参加費用としてやっているのではない。このことを踏み込んで説明してはどうか。

第五号議案、第六号議案 全員賛成の挙手により承認された。

【挨拶】 鍋島靖信、八尾佳典、神崎トモ子各理事の受任挨拶。

議長の下山明美理事は以上をもって議事運営・資格審査委員の任務を解き降壇した。

【閉会】 司会者瀧原勇事務局長より閉会の挨拶 16時45分閉会 以上

新理事紹介

第27回通常総会で選出された理事の自己紹介です。

理事就任のご挨拶

今年度から理事をさせていただきます鍋島靖信です。自然大学創設時に石原忠一先生から海の生態系を担当するよう依頼されました。これまで春の海岸で海洋実習をさせていただいていました。NPO「自然と緑」のほかに、大阪海区漁業調整委員会専門委員、大阪市立自然史博物館友の会会長・同館外来研究員、大阪府立環境農林水産総合研究所特認研究員のほか、岸和田市環境審議会委員、大阪湾海岸生物研究会、アナゴ漁業資源研究会、大阪湾見守りネット、日本財団「海と日本プロジェクト」、社会人大学などに関わっています。

もと大阪府立水産試験場の研究員で、関西空港の建設影響調査の時に奉職し、空港護岸を緩傾斜にして藻場や漁礁化するアイデアを出し、その効果予測調査をしました。その後も空港護岸のモニタリングに関わり、緩傾斜護岸は全国の海洋工事で使われています。NHK ラジオで大阪湾の生物の話をして3年半、子供や一般府民の水試見学、マスコミや外部からの問合せ担当、漁業資源管理、海苔ワカメの養殖指導を長年担当しました。来遊した海亀、イルカ、鯨を確認し、処理する仕事も担当し、2023年24年に来遊したマッコウクジラ騒動でテレビ出演しました。水試では便利な外交員で数年おきに仕事の分野が変わり、海だけでなく淡水魚試験場にも行き、大阪府の水産の全分野で仕事したのは私だけです。おかげで集中した研究はできませんでしたが、何を聞かれても答えられる情報量と、どこに行っても親しい漁業者がいて、ストレスなく仕事ができました。退職したら引退かと思っていたら、頼まれ事が増え、暇を持て余すことなく過ごしています。自分の仕事が少しでも役にたったなら良しとするかと思ったりしています。また、海や生き物に関して不思議に思ったことがあれば、聞いてください。知らないことを聞いてくれたら勉強になるので大歓迎です。よろしくお祈りします。

鍋島 靖信



私の二刀流？

会社員です。昨年 60 歳を迎え、さあ定年、第 2 の人生スタートだ！と思いきや会社の制度が変わり、定年が 65 歳までとなりました。いいのか悪いのか…えっ、あと 5 年も！！

長年、鉄鋼生産の仕事をしてきました。CO2 排出による地球温暖化の元凶のように言われることもあります。現代人の生活にとって鉄素材はかかせないものです。古代アナトリアのヒッタイト人に始まる人類の鉄器の歴史もずいぶん長いものです。日本の鉄器生産を担ってきた、たたら製鉄には木炭が大変重要な役割を果たしています。そんな人と鉄と木材の関係をこれからも考えていきたいとおもっています。

自然と緑の活動と会社員生活どちらも私にとって大切な活動です。決して若くはありませんが、会員の皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。自然と緑の先輩諸氏には、ご指導ご鞭撻いただきたいとおもいます。大谷選手のようにはいきませんが、これから私の二刀流（二足の草鞋を履く）が始まります。どうかよろしくをお願いします。

理事就任のご挨拶

このたび、NPO 法人「自然と緑」の理事に就任しました、神崎トモ子と申します。本法人が取り組んでいる「自然と人との調和のある社会づくり」に共感し、その実現の一助となれるよう、誠心誠意取り組む所存です。主に総務担当という立場から、会員の皆さまが安心して活動に参加いただけるよう、円滑な組織運営と情報共有、環境づくりに努めてまいります。至らぬ点も多々あるかと存じますが、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げますとともに、引き続きのご支援・ご協力を心よりお願ひ申し上げます。

神崎 トモ子



河野 猪太夫 先生を偲ぶ

河野先生は、自然と緑の二代目理事長（2009 年～2010 年）をされました。大学生の教育実習で自然と緑の初代理事長石原忠一先生に出会い、この先生のおられる学校に行きたいと同校区に就職されました。『公害と教育』『都市と自然』『障害児教育の実践』等、子ども達と自然環境を大事にすることに一貫して取り組まれました。

教職を辞められた後は、自然と緑の前身『自然と緑を守る大阪府民会議』の役員となられ、石原先生を支えて物静かで裏方に徹しておられたように思えます。

自然と緑の行事で担当者となられ「屋久島」、「長野県の縞枯山」そして「世界遺産 白神山地」のリーダーをされました。白神山地は 2000 年～2005 年の間に 3 回実施。私は白神山地 3 回目に参加しました。この観察会で「何よりもと記された」お話として『直径約 15 cm、厚さ 12～3 cm にくりぬいて見せてくれた表土の厚さはこの森を濃縮して見たようで印象深いものでした』という感想でした。25 名の参加者の皆さんも素晴らしい観察会でしたと感想を寄せていました。



竣工時の倉庫

自然と緑は 1998 年（平成 10 年）馬ヶ瀬山で植樹祭を催し、その後に滋賀署の許可を得た倉庫作りに於いて、人工林のヒノキを根付きのまま 8 本を柱に使用しました。等間隔に植栽されているその利点を活用されました。河野先生と初代事務局長の山中さんが中心となり定例活動日以外にも行かれ完成させました。倉庫は 27 年経過した現在でも当時の姿を残しています、またトイレも頼もしい存在でした。河野先生は現地に着くやいなや先ずトイレ掃除をされていられました。このようにコツコツと活動を積み重ねてこられた姿が思い出されます。自然大学発足から地道に積み重ねられた活動に感謝の意を表します。



トイレは撤去されました

河野猪太夫 様 享年 86 歳 （1935 年 1 月 28 日～2021 年 6 月 3 日）
NPO 法人自然と緑 事務局次長 小島 和江 記

渡辺弘之の未解決事件簿 (25) 東南アジアのカワゴンドウ (イラワジカワイルカ)

自然大学学長 渡辺弘之

ボルネオ・カリマンタン、マハカム河

1991年8月、インドネシア領ボルネオ、東カリマンタンのサマリダに滞在中のこと、著名なボルネオの哺乳類研究者安間繁樹さんから雨が降らないのでマハカム河の水位が下がり上流のスメヤン (Semeyang) 湖、ムリントン (Melintan) 湖にカワゴンドウ (イラワジカワイルカ) (河巨頭) (*Orcaella brevivostris*) が集まっていますと確実に見れると聞いた。

次の日の朝、コタバングン (Kota Bangun) まで行く船に乗った。サマリダ朝9時の出航でコタバングンには夕方6時半の到着だった。暗い中を歩いて安宿を見つけ、ビスケットを買って食べた。翌日の朝、ボートをチャーターしてスメヤン湖に向かった。大きな湖で、水平線が地平線だった。水深はきわめて浅く、ボートは立っている棒をたどった。ここがやや深い水路ということだ。それでも何度か座礁し、船頭がボートから下りて泥からはずしてくれた。

カワゴンドウはスメヤン湖とムリントン湖をつなぐ水路にいた。ここが少し深いようだった。エンジンを停めて漂っていると、突然、近くでブオーという大きな音とともに水を噴き上げた。数頭の群れであった。望遠レンズはもっていなかったの、いい写真は撮れなかった。

サマリダではイカン・プサット (Ikan Pesut) とかタピアン (Tapiian) と呼んでいたが、このカワゴンドウはマイルカ科のカワゴンドウ属あるいは独立させてカワゴンドウ科のものとされている。体長は最大2.8 m、体重は最大で130 kg程度、頭はずんぐりし、鼻は突き出しておらず、魚雷型。普通、数頭の群れで行動するとされる。

ベンガル湾に注ぐインドのガンジス河・ブラマプトラ河、ミャンマーのイラワジ (エーヤワディ) 河からオーストラリア北部までの広い海域に分布するとされる。タイ南部の汽水湖ソクラ湖にもかつては生息していたようだが、これは絶滅したともされる。河川だけでなく、広く海洋にも生息するということだ。最近、オーストラリアのものはこのカワゴンドウとは別種とされたようだ。

マハカム河はマレーシアとの国境に源をもち、その全長は900 km、ボルネオ第一の大河である。このカワゴンドウが州都・大都会のサマリダから海へでることはあっても、新しい個体がマハカム河を上ってくる可能性があるのかなと気になった。スメヤン湖・ムリントン湖自体が、海岸から約200 kmもの上流、大都市のサマリダでも河口から60 kmもの上流である。海上交通量の多いこの大都市の中を通過して上流へ向かう、あるいは海へでているとは、とても考えられなかった。

ミャンマー・イラワジ (エーヤワディ) 河

2015年6月、自然と緑のミャンマー研修旅行では、遺跡の街バガン近くのエーヤワディ (エーヤワディ) 河畔のホテルに泊まった。イラワジ河もヒマラヤを源流に全長2,170 kmの大河である。眼の前のイラワジ河にカワゴンドウが現れるのではないかと期待したのだが、ここにはいない、もう少し上流の深いところにいるといわれた。

NHK・BSのテレビ番組で鶴田真由さんがもう少し上流のマングレー近くのエーヤワディ河中州のセインバンゴン村を訪ね、イラワジ河でカワゴンドウと共同作業で魚を捕る様子を放映した。カワゴンドウが数頭の群れで魚を追い詰めると、そこへ漁師が投網を投げるのである。まったくの横取りで、それはずるいと思ったが、カワゴンドウの方も投網から逃げる魚を効率よく捕れるのだという。漁師が舟を叩くとカワゴンドウが寄ってくる。カワゴンドウを個体識別し名前を付けていた。イルカ漁というので、イルカを捕って食べるのかと思ったが、イルカと漁師の仲よし共同作業だった。ここには約100頭が生息するといっていた。

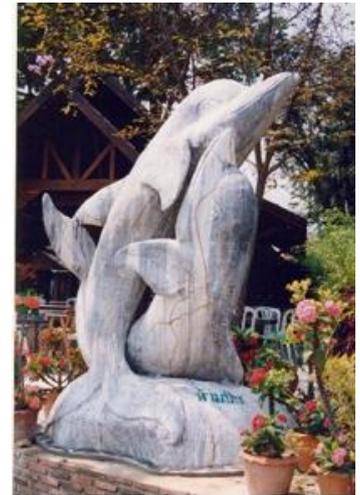


ボルネオ・マハカム河ムリントン湖の四手網漁

タイ・メコン河

このカワゴンドウが中国雲南省に源をもちベトナム南部ミトーで南シナ海に注ぐ、全長 4,800 km のメコン河にもいると知った。しかし、カンボジア・ラオス・タイの国境近くにあるコーンの滝コーンパペ (Khone Pha Pheng) の上流には上がれず、コーンの滝の下流にだけいるとされている。コーンの滝は大きな落差をもつものでなく、大きな岩がいくつも突き出たところで急流が 10 km も続くところである。とてもカワゴンドウは遡れないところだと聞いていた。大河メコンの航行もここで上流と下流に二分される。

メコン河の上流、タイ・ラオス・ミャンマーの国境ゴールデン・トライアングルのチェンセンの街のメコン河畔にカワゴンドウと思われる像があった。ここにいる有名な世界最大の魚メコンオオナマズとは思えなかった。カワゴンドウだとしたら、コーンの滝の上にもカワゴンドウがいることになる。本当にいるのかと疑っていた。



チェンセンの
カワイルカの像



象耳魚

2013 年 7 月、ベトナム南部メコン河口のミトーへ行った。ここで食べたい料理「象の耳魚」があったからだ。レストランは Mekong Rest Stop というところ、でできた魚はベトナム名で Ca Tai Tuong といったが、Ca が魚、Tai が耳、Tuong が象、文字通り「象の耳魚」である。生け簾の中で泳ぐ魚をみて、すぐにこれはタイやインドネシアでよく食べたグラミー (ジャイアント・グラミー) だとわかった。

これを高温で丸ごと揚げると鱗がカリカリになり外へそり返っている。これが大きなお皿に倒れないように両側から竹串で支えられている。横向きでなく、立っているところが面白い。身をほぐし、野菜と一緒にライス・ペーパーで包み、甘いチリソースやニョクマム (魚醤) つけて食べた。ここにはもう一つの名物ソイ・チン・フォンと呼ばれるサッカーボールのように大きな風船餅もあった。本当にボールのように中は空っぽだった。これも食べた。

そのメコンの河口はいくつにも分かれているのだが、どこも浅く、船で川砂を採っていた。観光で乗ったボートは果樹園や養蜂地を回ったが、船頭に「カワイルカはいないのか」と聞いたが、「知らない」といわれた。関心はないようだった。これは聞く相手が適当ではなかったということのようだ。

最近知った IV Japan の報告ではメコン上流の最後のカワイルカが 2022 年 2 月 15 日に死んだとしている。チェンセンにあった像はやはりカワイルカだったようだ。



風船餅

【これなんだろう・何故だろう】



写真はクワ科イチジク属のイヌビワ (*Ficus erecta*) で、左は6月、右は9月に撮影したものです。左の果実は小さく、生ったばかりで花が咲いた気配は全くありません。でも子孫を残す種子は作ります。何故でしょうか (答は 8 ページをご覧ください)

さいとうさんの“話のタネ” (70) シロミノヤブムラサキ

前自然と緑理事長 齊藤 侑三

能勢妙見にあがるケーブルカーが廃止になるというので、2023年10月21日、10人で訪ねた。下りは初谷コースを降り、初谷のどこかに、シロミノヤブムラサキ(白実藪紫)が植えてあると報告があったのでどうしても見たいと思っていた。

シロミノヤブムラサキは、淡路島の標高133mの三熊山山頂に築かれた洲本城本丸から初倉～西の丸方面へ進むところにあり、1994年(平成6年)に新品種として発表された。同市は翌年に天然記念物に指定し鉄柵で囲み保護している。2018年には実付きが悪く実が見えたのは1個だけ、囲い込むだけだと周囲の木が大きくなるので日照不足になり、最後に枯れてしまう。

保護する場合は周囲の環境を整備することが大切で、囲いさえすれば守れるのではない。「熊本県の立田山自然公園で自生のヤエクチナシを1920年(大正9年)に発見した。当時は20株ほどあったが、特別保護区域として囲ったため消滅した」と自然大学で只木教授に聞いた。洲本市もこの二の舞に成らなければよいが・・・



シロミノヤブムラサキ能勢の看板

洲本の説明看板には『洲本市指定天然記念物:シロミノヤブムラサキ、1992年(平成4年)12月22日に南光重毅さんが発見し、理学博士の福岡誠行さんによって学名と和名がつけられ、2年植物地理分類学会にクマツヅラ科ヤブムラサキの新品種として認定された。1995年(平成7年)3月9日付で洲本市指定文化財に指定し保護することになったものです。洲本市』

これが世界で唯一確認された「シロミノヤブムラサキ」の発見なのだ。

能勢のシロミノヤブムラサキは初谷コースを下り平坦地の「初谷溪谷憩いの場」に案内板があり、説明には次のように書いてある。

「希少野生生物保護 世界で2番目の発見!!シロミノヤブムラサキ『シロミノヤブムラサキとは白花・白実のヤブムラサキである。花は6月頃咲き、11月頃白い実をつける。ヤブムラサキの白花・白実は珍しく、世界で唯一確認されているという兵庫県洲本市では天然記念物に指定され保護されている。2011年6月、川西市在住の菅氏によって確認されたこの豊能町吉川の個体は世界で2例目となる大変貴重な発見である。その個体より、品種同定観察のため兵庫県立大学名誉教授服部保氏により挿し木苗として育てられたものが、この『初谷溪谷憩いの場』に移植された(2015/7鉢上げしたもの)。』



R2.1.26.撮影 小嶋正良氏提供

世界で2例目の貴重性から、持ち去りなどを懸念して公表を控えてきたが、自治会や地域住民らが町に対して保護対策を要望。さし木で株を増やすなどの保護活動を展開した。

シロミノヤブムラサキの実は11月になると白く熟してくるが10月下旬だったので、まだ緑色だった。

2025年4月、クマガイソウの見学に誘われて行くと、初谷コース憩いの場のシロミノヤブムラサキの植栽地の横から上に上るとクマガイソウが移植されていた。貴重な植物になると盗掘の心配が出て来る。

ムラサキシキブの仲間はクマツヅラ科からシソ科に変更された。コムラサキ、シロシキブ、トサムラサキ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキなど、おなじみのよく知っている種類しかないと思っていたらムラサキシキブ属は26種もあった。

トサムラサキは、さいとうさんの自然観察の話の種2の79頁に掲載している。

(豊能町トヨノレポーター・2025ステップアップ受講者 小嶋正良さん提供)



能勢自生地の看板 小嶋正良氏提供



2023.10.21 シロミノヤブムラサキ



R1.12.22.撮影 小嶋正良氏提供



【6ページの答】イチジク属 (Ficus 属) の仲間は左写真のように壺状の内側に花が着き、花が見えない為、果実だけの「無花果」と言われます。

イヌビワは雌雄異株で、イヌビワコバチにより受粉し、雌株には種子ができて、子孫ができます。

雄花序の奥側には花柱が短い「虫えい花」があり、これにハチが産卵する。幼虫は虫えい花の子房が成熟して果実状になるとそれを食べ、成虫になる。

初夏になると雌成虫は外に出るが、雄成虫は花序の中で雌成虫と交尾するだけで死にます。雌成虫は雄花序の雄花から花粉を受け、開花した雌花序に入り、授粉するが、ここでは産卵できず、雄花序に入ったものだけが虫えい花に産卵し、翌年春にこれが幼虫になります。

自然と緑の活動報告 2025年4月～2025年6月

- ◇4/10(木) 4月期理事会 13人
- ◇4/13(日) 第30期自然大学室内講義「森林の生態」 45人
- ◇4/17(木) 斑鳩町の里山整備 2024年度完了立ち合い 4人
- ◇4/20(日) 自然と緑の自然観察会「丹生山(神戸)」 20人
- ◇4/26(土) 第30期自然大学野外実習「長崎海岸」 33人
- ◇4/27(日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「定例間伐・炭焼き活動」 34人
- ◇4/29(火・祝) 地学的むかし散歩「第13回」 27人
- ◇5/ 3(土・祝) 河川探訪自然観察会「鴨川探訪 第4回」 47人
- ◇5/ 8(木) 5月期理事会 15人
- ◇5/11(日) 第30期自然大学野外実習「春日山原始林」 37人
- ◇5/13(火) 自然と緑の自然観察会「宝塚西谷の森公園」 23人
- ◇5/18(日) ステップアップ講座野外実習「錦織公園」 17人
- ◇5/20(火) 大阪経済法科大学 里山整備 8人
- ◇5/25(日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「定例間伐 炭焼き活動」 13人
- ◇5/28(水) 地学的むかし散歩「第14回」 19人
- ◇5/31(土) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「植物調査」 2人
- ◇6/ 1(日) 第30期自然大学野外実習「金剛山」 29人
- ◇6/ 7(土) 第27回自然と緑通常総会 31人

【寄付等の御礼】

いつもありがとうございます

<切手、ハガキ、現金など>

- 5/ 8 寄付 伊藤孝美 様
- 5/19 寄付 角田泉 様
- 5/19 切手 西田博 様
- 6/19 寄付 実森あづみ 様



ご寄付は下記までお願いします

ゆうちょ銀行口座名：
特定非営利活動法人 自然と緑

口座記号： 00900-7
口座番号： 150942

振込用紙の通信欄に

「寄付」と明記願います。

——お知らせ——

「NPO 法人自然と緑」のホームページがリニューアルしました。随時最新情報を更新していきますのでぜひ御覧ください。



★編集雑記

日本の四季を彩る五節句の一つ「七夕の節句」があります。七夕は日本の伝統的な行事として親しまれ、保育園・幼稚園でも欠かすことのできない行事だそうですね。絵本を読み聞かせて、織姫と彦星の昔話、七夕の風習を知らせ、子供たちが「短冊に願いごとを書いて笹竹に飾る」という行動で、より七夕まつりを楽しみ、子供たちが自分の願い・願いを表すのが大切なのでしょうか。

短冊飾りは七夕の「七つ飾り」の一つで、天の川を連想させるカスミノウが七夕に合う花として知られています。カスミノウの花言葉は「清らかな心」「無邪気」「幸福」「感謝」「親切」ですが、染めカスミノウでは「青 無邪気」「紫 清らかな心」「桃 感謝・感激」などと分かれ、短冊の色をそれぞれの想いに合わせて選びます。

七夕の節句の行事食は「そうめん」です。平安時代の宮中儀式で「素餅(さくべい)」をお供えしていたといわれ、素餅がそうめんの原型で、そこから七夕の日はそのめんを食べる習わしになったそうです。

(イチロー)